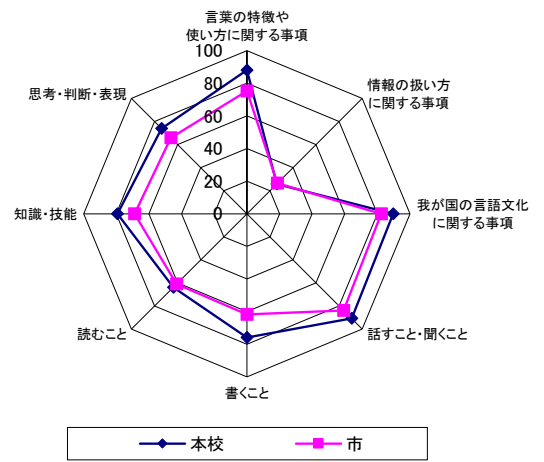


宇都宮市立陽東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	88.1	75.3	77.1
	情報の扱い方に関する事項	25.9	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	89.7	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	90.8	83.9	84.2
	書くこと	75.9	61.7	64.5
	読むこと	63.8	60.9	61.0
観点別	知識・技能	79.3	68.8	70.3
	思考・判断・表現	74.0	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

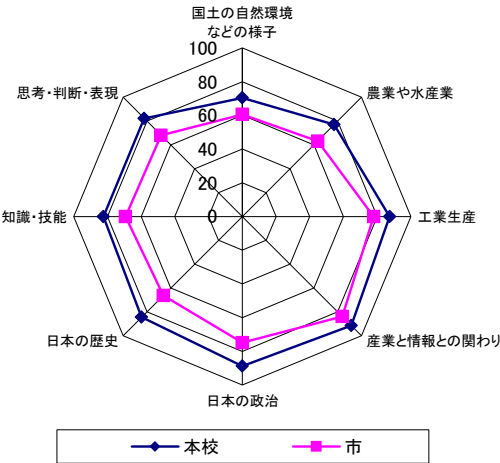
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使いに関する事項	○市の正答率とほぼ同じである。6学年配当の漢字の読みの正答率の平均が97.7%と高い。 ○5学年配当漢字の書きの正答率の平均が80.4%で、市の平均正答率より19.5ポイント上回っている。 ○敬語の問題では校内正答率が72.4%で、市の正答率より20.4ポイント上回っている。	・漢字や熟語については、引き続きプリントやドリルなどを用いた繰り返しの学習を行うとともに、文章の中で適切な漢字をできるように習熟を図る。 ・定期的に前学年までの漢字の読み書きを復習する機会をつくる。 ・引き続き定期的に敬語の使い方を復習する機会をつくる。
情報の扱い方 に関する事項	●市の正答率を0.6ポイント下回っている。 ●市、本校ともに20%台と低い結果となっている。「情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理している」ことを見る設問では、文章を読み取り、短くまとめることができず、正答率が10.3%とかなり低い値になっている。	・複数の情報の関係を理解し、目的に応じた文章を書く力を伸ばすために、文章を読んで要約したり、キーワードを抜き出し、的確に話題を捉えて表現する活動を取り入れていく。 ・国語以外の教科においても、資料から分かることを書き出し、まとめたりする活動を、今後も取り入れて指導していく。
我が国の言語文化 に関する事項	○市の正答率を7.3ポイント上回っている	・和語・漢語・外来語への理解を深め、言語文化への興味・関心が高まるよう、古文や漢文等様々な文章に触れる機会をもてるようにする。
話すこと・聞くこと	○市の正答率を6.9ポイント上回っている。話の内容を捉える問題と、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題は、どちらも正答率は86.2%だった。意図に応じて、質問を工夫しているかについて問う問題では正答率は100%だった。	・引き続きICT機器やホワイトボードなどを用いた意見交換の場を積極的に設ける。また、自分の立場を明確にしたり、友達の意見を聞いて自分の考えを発表したりするような活動や討論会等を充実させる。
書くこと	○市の正答率を14.2ポイント上回った。特に、指定された長さで文章を書くこと、2段落構成で文章を書くこと、自分の意見と根拠を明確にして書くことについての正答率は93.1%であり、いずれも市の正答率を大きく上回っている。 ●いずれも市の正答率を上回っているが、集めた情報の関係を理解して目的に応じた文章を書いたり、自分の意見に対しての反論を予想してそれに対する意見を書いたりするなど、書く前に複雑な思考を要する設問の正答率が低くなっている。	・総合的な学習の時間・社会科などでの調べ学習で、集めた情報を整理して目的にあった文章を書く、話し合い活動で相手の意見をきちんと受け止めた上で自分の考えを再構築するなど、教科横断的な取組を通して、「考えて書く」力を更に高めていく。
読むこと	○市の正答率とほぼ同じであった。登場人物の心情について描写を基に読み取る問題では、市の正答率を11.9ポイント上回っており、全国と比べても11.0ポイント上回っている。 ●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する問題では、市の正答率を6.9ポイント下回った。	・物語文では、文章をよく読み、叙述をもとにした読み取りを継続して指導していく。 ・国語の時間以外にも、グループや全体で意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる場を積極的に設けるようにする。

宇都宮市立陽東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	70.3	60.5	65.8
	農業や水産業	77.0	63.3	66.0
	工業生産	87.4	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	91.4	83.8	76.6
	日本の政治	88.8	74.9	74.1
	日本の歴史	84.5	66.3	68.3
観点別	知識・技能	82.4	69.3	71.4
	思考・判断・表現	82.3	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

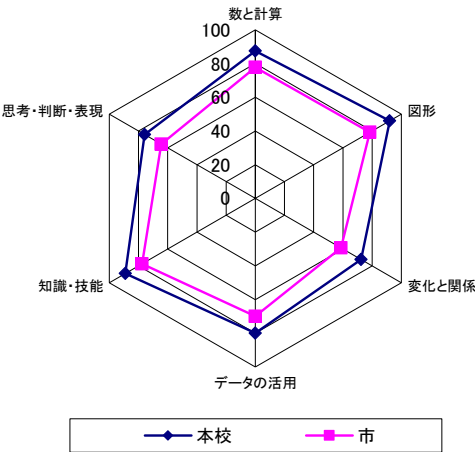
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○領域全体では、市の正答率を9.8ポイント上回っている。特に、日本の国土とまわりの国についての問題は、正答率が約8割である。 ●雨温図を読み取る問題では、市の平均を10.1ポイント上回っているものの、正答率は65.5%だった。 ●公害について理解しているかの問題の正答率は市の正答率を8.4ポイント上回ったが、34.5%であった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・従来の地球儀や地図帳に加えて、一人一台端末を使ってインターネットの地図サイトを活用していく。 ・地形や地名に関して得た知識と現地の様子(デジタル)をつなげることで、国土や自然環境に関する理解を深めさせる。 ・普段の授業で、重要語句を説明する時間を設けることで、知識の定着を図る。
農業や水産業	○領域全体では、市の正答率を13.7ポイント上回っている。どの問題も高い正答率であるが、特に品種改良の意味を問う問題の正答率は、86.2%であった。 ●食料自給率のグラフの読み取りの正答率は市の正答率を29.2ポイント上回ったが、65.5%だった。	・今後も、農業や水産業と自分たちのくらしとの結びつきを重視し、資料を教材として大切に取り入れていきたい。 ・グラフの読み取りに時間をかけ、グラフから何が分かるかを考える授業を展開する。
工業生産	○自動車の部品を再利用する問題では、正答率が100%であった。 ●日本の輸出品に関する問題の正答率は市の正答率を9ポイント上回ったが、65.5%だった。	・社会的な視点、考え方を育てられるように、資料を読み取る際に、ポイントとなる重要語句を丁寧に説明する。 ・総合的な学習の時間で、リサイクルをはじめ、環境問題をテーマに取り組んだ成果が出たので、他の領域でも可能な限り他教科との関連を強化していきたい。
産業と情報との関わり	○領域全体では、正答率が9割を越え、市の正答率を7.6ポイント上回っている。私達の生活と情報や自然環境との関わりについて、よく理解していると言える。	・情報を生かす産業について、身のまわりの生活から事例を取り上げるようにする。また、インタビューなどをもとに自分の考えを深めさせる。
日本の政治	○領域全体では、市の正答率を13.9ポイント上回っている。特に日本国憲法についての理解度が高い。 ○参議院の意義を書く問題の正答率は79.3%であり、市の正答率より、26.3ポイント上回っている。	・自分たちの生活の中で、憲法と関わる場面について考え、教科書の内容と結び付けながら、授業の振り返りをするような場面を設定していきたい。 ・新聞やニュースなどから政治に関する話題を学級内で取り上げることで、更に政治への関心を高めていきたい。
日本の歴史	○領域全体で、市の正答率を18.2ポイント上回っている。特に、安土 桃山時代以降の問題での正答率が高い。 ●鎌倉時代の元寇の攻めてきた場所についての正答率は市の正答率を11.7ポイント上回ったが、55.2%だった。	・今後も、歴史まんがを紹介したり、年表をはじめとする様々な資料を提示したりしながら、歴史に対して様々な方法で触れさせていきたい。 ・地域に残る文化財をはじめ、歴史の舞台になった場所は、地図で場所を確認しながら、理解を深めていく。

宇都宮市立陽東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	87.5	77.7	78.6
	図形	92.1	78.4	74.4
	変化と関係	72.4	58.7	53.0
	データの活用	79.9	69.9	57.2
観点別	知識・技能	89.1	77.5	74.0
	思考・判断・表現	75.9	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

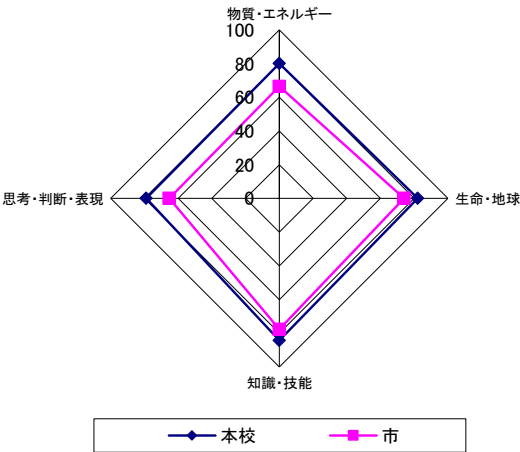
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○領域全体では、市の正答率を9.8ポイント上回っている。特に分数の計算で比較量が基準量の何倍になるかを求める式を選ぶ問題の正答率は、市の正答率を17.3ポイント上回っている。 ●2つの文字を使って表された式で、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題の正答率は、市の正答率を4.4ポイント上回っていたが、正答率が75.9%であった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎計算について、反復して学習に取り組んできたことが、計算する力の定着に結び付いてきたと考えられるので、今後もAIドリル等を活用しての基礎・基本の定着を図る。 ・文字の値を求めることができていない児童が多いのは、立式ができていないことに原因があると考えられるので、授業内で多様な例題を使って反復していくことで、文字を使った式を立てることの良さを感じられるようにする。
図形	○領域全体では、市の正答率を13.7ポイント上回っている。特に2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求める問題の正答率は、市の正答率を31.8ポイント上回っている。 ●図に示された四角形の内角の和の求め方を説明する問題の正答率は、市の正答率を24.3ポイント上回っていたが、正答率が62.1%であった。	・授業内で公式の証明だけでなく、多様な見方・考え方による立式やその説明を口頭で言う機会を設けてきた成果が見えたので、今後も継続していく。 ・習熟の足りていない児童に対しては、説明問題を穴埋め形式にするなどで苦手意識の軽減を図っていく。
変化と関係	○領域全体では、市の正答率を13.7ポイント上回っている。特に速さの単位を理解し、分速を秒速や時速に直す問題の正答率は、市の正答率を28.5ポイント上回っている。 ●表から面積と人数の割合を求める問題の正答率は、市の正答率を3.2ポイント下回っていた。	・計算プリント等での反復学習の成果が、速さの単位変換についての力の定着につながったと考えられるので今後も継続していく。 ・割合の人口密度に関する問題に苦手意識が見られるので、改めて単位量あたりの大きさの復習を計算プリントなどで行いフォローしていく。
データの活用	○領域全体では、市の正答率を10.0ポイント上回っている。特に度数分布表を完成させる問題の正答率は、市の正答率を15.8ポイント上回っている。 ●ヒストグラムの特徴をもとに説明をする記述問題の正答率は、市の正答率を3.7ポイント上回っていたが、正答率が48.3%であった。	・平均という言葉だけでなく代表値それぞれの特性を理解させるとともに、授業内の討論を通して根拠を基にして説明する力を身に付けさせていく。 ・日常的に他教科などで使用されるグラフの読み取りをするときも、根拠をもって説明できるよう意識的に口頭で答えさせる機会を設けていく。

宇都宮市立陽東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	80.0	66.5	66.3
	生命・地球	82.1	74.0	72.6
観点別	知識・技能	84.2	77.6	78.2
	思考・判断・表現	78.9	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○市の正答率を13.5ポイント上回っている。 ○ふりこのきまりの内容では、すべての問題で市の正答率を20ポイント以上上回っている。特に実験の操作の誤りを説明する問題の正答率が89.7%で、市の平均を27.6ポイント上回っている。 ○もののとけ方の内容では、10～20ポイント程度市の平均を上回っている。	・実験を通して体験的に学習していくことを大切にしながら、今後も実体験を重視した授業を充実させていきたい。 ・日常生活の中で学習内容に関連するものを紹介することで、普段の生活と結び付けながら理解できるようにしていく。 ・予想を立てさせてから実験をすることで実感を伴って理解できるようにする。
生命・地球	○市の平均と比べて8.1ポイント上回っている。 ○月と太陽の内容では、太陽と月の位置関係から、月の形の見え方の違いを指摘する問題の正答率が93.1%で、市の平均をおよそ13ポイント上回っていた。 ●水溶液の性質の内容では、市の平均よりおよそ12ポイント上回っているが、正答率が44.8%にとどまっている。	・モデル実験をすることで、体験的に学習することができるようにする。 ・筋道を立てて1つずつ丁寧に確かめていく力を付けるために、実験のつながりを意識させて指導していきたい。

宇都宮市立陽東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・ペア学習やグループ学習を中心とした学び合い	・様々な授業の中で、ペア学習やグループ学習での学び合いの場を意図的に設定する。	・「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」についての肯定割合が90.0%で市の平均よりも9.5ポイント高く、「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」についての肯定割合が80.0%で市の平均よりも9.2ポイント高かった。
・ICT活用による主体的に課題解決できる児童の育成	・Googleツールを活用した協働的な学びの実践。学習に対して困り感のある児童に対する個別支援や様々な授業における、目的に応じた学習方法や学習環境の工夫。	・「インターネットやパソコンを利用して、学習に関する情報を得ている」についての肯定割合が96.7%で、市の平均よりも6.3ポイント高く、「パソコンを使って、相手に分かりやすく自分の考えや調べたことを伝えることができますか」についての肯定割合が98.3%で、市の平均よりも9.6ポイント高かった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・6年生では全教科において、ほぼすべての領域および観点で市の平均や参考値を上回っている。今後も基礎・基本を大切にしながら、発展的な課題にも取り組んでいきたい。
- ・一人一台端末の使用が定着し、学習内容に合わせた活用ができていますので、次年度も更に児童の学びを深めるためのツールとして、端末を活用していきたい。
- ・家庭学習についての項目で、肯定的に回答している児童の割合が市の平均よりも低い学年がいくつかあった。家庭学習の充実と習慣化に向けた取組を強化していきたい。